



ず〜むあつぱ 「まちの風景」

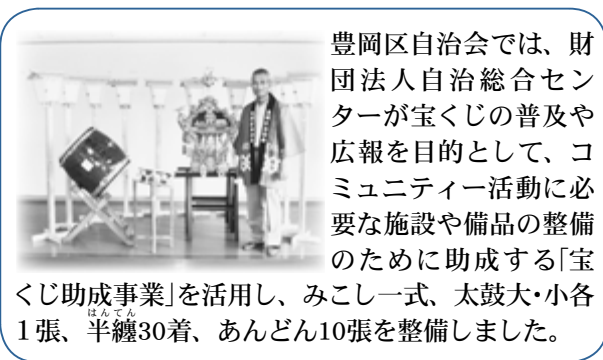
●介護の第一歩は“相手がどんな人生を送ってきたかを考えること”

東海村社会福祉協議会主催による介護が楽しく前向きになる講演会「心のあやとり 介護する側される側の心のあり方」が7月26日、総合福祉センター「絆」で行われ、約150人が参加しました。講師を務めた羽成幸子さん(カウンセラー・エッセイスト)は、19歳から30年間、祖父母・父母・姑と5人の介護をしたという経験の持ち主で、姑の人形“キクさん”と登場。動くことを嫌がるキクさんを朝・昼・晩の食事場所を変えて動かそうとしたり、自分でもおしめを付けて相手の気持ちを理解しようとしたりと今までの介護の様子を振り返り、「介護は相手が今までどんな人生を送ってきたのか考えることが第一歩です。相手の考え方・習慣・言葉・におい、人生を受け入れてください」とした上で、「介護する人・される人、両方の人生をつぶさないこと。自分の好きなことをしたり、誰かに委ねたりして、心にゆとりをつくってください」と、介護をしている人の“心”の状態を分かりやすくストレートに話されたことに対し、多くの参加者はメモを取ったり、大きくなるはずいたりして、介護についての認識を新たにしているようでした。



●みこしを中心にふるさとの祭り“再出発”

7月19日、豊岡区自治会による「豊岡区自治会ふれあいまつり」が豊岡集落センターで開催され、区内77戸・ほぼ全世帯から集まった参加者は、もちつきや輪投げ、ヨーヨーすくいなどを楽しみました。中でも約半世紀ぶりに復活した“新調みこし”は子ども会や長寿会等の方々交代で担ぎ、太鼓の響きや担ぎ手の威勢のいい掛け声で会場のお祭りムードは最高潮。レイを身に付けた優雅なフラダンスや、子どもから大人まで祭り半纏姿での盆踊りも会場を大いに盛り上げていました。自治会長の橋本敵さんは「おみこしを中心に、子どもたちに自分のふるさととして思い出してもらえよう祭りにしたいですね」と話してくれました。



豊岡区自治会では、財団法人自治総合センターが宝くじの普及や広報を目的として、コミュニティー活動に必要な施設や備品の整備のために助成する「宝くじ助成事業」を活用し、みこし一式、太鼓大・小各1張、半纏30着、あんどん10張を整備しました。